



ユツユツ とこどん

大仙市立太田中学校
令和5年1月17日
NO. 117



うららかに たくましく ~ 耕し 萌えたち みのらせ さきみだる~

冬休み中の太中生の活動

今の力は？[3年生実力テスト] (R5 1/5)

令和5年に入り、2ヶ月後には公立高校一般選抜です。志望校への可能性とこれからの取組を明らかにするためのテストを正月明け早々に行いました。さあ、ラストスパートです。

「どうせ無理」はラクしたいから



「どうせ無理」を「だったらこうしてみたら？」に

「どうせ無理」という言葉は人の可能性を奪います。

興味をもたなくなり、やる前に諦め、考えなくなってしまう。

「だったらこうしてみたら？」という言葉は人の可能性を広げます。

やったことが無いことに挑戦し、諦めずに、よりよくを求めるようになります。

「下町ロケットのモデルとなったと言われる植松電機株式会社」社長 植松 努

大仙市の未来を考える[大仙市中学生議会] (R5 1/11)

市議会の議場を利用し、未来を担う中学生が“議長や議員”となって、まちづくりや教育行政など、生徒に身近なテーマについて一般質問形式で質問・提案を行い、市政及び市議会への興味と理解を深めるとともに、その体験を実際の学校生活(生徒会活動等)や地域の行事などで役立てていくことにより、総合的な学力の育成の一層の推進を図ります。

中学生議員からいただいた意見などは、これからのまちづくりの参考にしていきます。

学校関係者、中学生議員の保護者も傍聴に訪れることから、市議会にも関心がもたれ、今後の市議会の活性化にもつながるものと期待されます。を目的に、

1月11日(水)、大仙市役所の本会議場で、『大仙市中学生議会』が開催され、本校を代表し、草薙大翔さん、佐々木佑季音さんが参加しました。中仙中学校の生徒が議長、西仙北中学校の生徒が副議長として進行し、実際の市議会に準じて議会が進められました。一般質問では、市内10校の代表が午前午後を渡って、未来の大仙市の担い手として鋭い質問を市関係者に投げ掛け、大仙市の活性化や発展について真剣に考えている様子に、中学生の発想の豊かさ、大仙市の未来の担い手の自覚と意思の強さを感じました。若干緊張気味だった本校の2人ですが、太田地域、太田中学校の特色を踏まえた本校ならではの視点で、「花壇を中心とした市民の交流拡大の可能性」「本地域の横沢公園はもとより、市内の多くの公園の利用者を増やすための情報発信や中学生にもできる情報発信の方法」について質問し、中学生議会の目的を達成する一翼を担う



活躍を見せてくれました。質問には、老松市長より丁寧に答弁いただき、市の考えや自分たちができる事への考えを深めました。

議会の最後には、「SDGsを意識した行動と笑顔が広がるまちづくり」に関する決議を採択して閉会しました。この様子は、今後発行される大仙市広報、市議会だよりに掲載されることになっています。

3年に1度開かれる『大仙市中学生議会』は、誰もが参加できるものではない貴重な経験です。2人には、この経験を自分の将来に生かすとともに、太中生に還元することで、『さ・わ・や・か』太田の形成と太中Prideの高まり(太中の活性化、地域への貢献)に結び付けてほしいと願っています。

